Economic Indicators

発表日:2019 年 6 月 21 日(金)

消費者物価指数(全国・2019 年5月)

～先行きはさらに鈍化へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴(TEL:03-5221-4528)

(単位:%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
18	1月	1.4	0.9	0.1	0.4	7.3	1.3	0.7	0.3	0.4	8.8
	2月	1.5	1.0	0.3	0.5	9.2	1.4	0.9	0.4	0.5	10.7
	3月	1.1	0.9	0.3	0.5	7.0	1.0	0.8	0.4	0.5	7.6
	4月	0.6	0.7	0.1	0.4	7.0	0.5	0.6	0.3	0.3	7.2
	5月	0.7	0.7	0.1	0.3	9.1	0.4	0.5	0.1	0.2	11.0
	6月	0.7	0.8	0.0	0.2	13.6	0.6	0.7	0.3	0.4	15.7
	7月	0.9	0.8	0.0	0.3	14.3	0.9	0.8	0.4	0.5	15.7
	8月	1.3	0.9	0.2	0.4	13.9	1.2	0.9	0.5	0.6	15.4
	9月	1.2	1.0	0.1	0.4	14.8	1.2	1.0	0.5	0.7	16.3
	10月	1.4	1.0	0.2	0.4	15.5	1.5	1.0	0.5	0.6	17.2
	11月	0.8	0.9	0.1	0.3	11.9	0.8	1.0	0.5	0.6	11.8
	12月	0.3	0.7	0.1	0.3	5.5	0.4	0.9	0.4	0.6	4.4
19	1月	0.2	0.8	0.3	0.4	1.7	0.5	1.1	0.7	0.7	▲ 0.1
	2月	0.2	0.7	0.3	0.4	▲ 0.3	0.6	1.1	0.7	0.7	▲ 0.2
	3月	0.5	0.8	0.3	0.4	1.6	0.9	1.1	0.6	0.7	1.5
	4月	0.9	0.9	0.5	0.6	2.3	1.3	1.3	0.9	0.9	2.0
	5月	0.7	0.8	0.3	0.5	3.0	1.1	1.1	0.7	0.8	2.9

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○エネルギー、コアコアとも鈍化

総務省から発表された 19 年５月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比＋0.8%と前月から上昇率が 0.1%Pt 縮小した。ちなみに小数第２位までみると＋0.76%で、４月の＋0.91%から 0.15%Pt の鈍化である。エネルギー価格の伸びが前月から鈍化したことに加え、除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）が前年比＋0.5%（４月：＋0.6%）、食料及びエネルギー除く総合（米国型コア）が前年比＋0.3%（４月：＋0.5%）と、コアコア部分もそれぞれ鈍化している。全体としてやや弱めの結果である。

先行きについても、エネルギー価格の鈍化が続くことに加え、６月には携帯電話通信料の値下げの影響でコアコアも下押しされる見込みであることを考えると、ＣＰＩコアは６月以降さらに伸び率を鈍化させていく可能性が高いだろう。

○ コアコアは低空飛行が続く

エネルギー価格は前年比＋3.7%と、前月の＋4.6%から伸びがやや縮小した（前年比寄与度：４月＋0.37%Pt → ５月＋0.30%Pt）。原油価格の上昇を受けてガソリン、灯油価格が値上がりした一方、電気代、ガス代の伸びが鈍化したことが押し下げ要因になった。

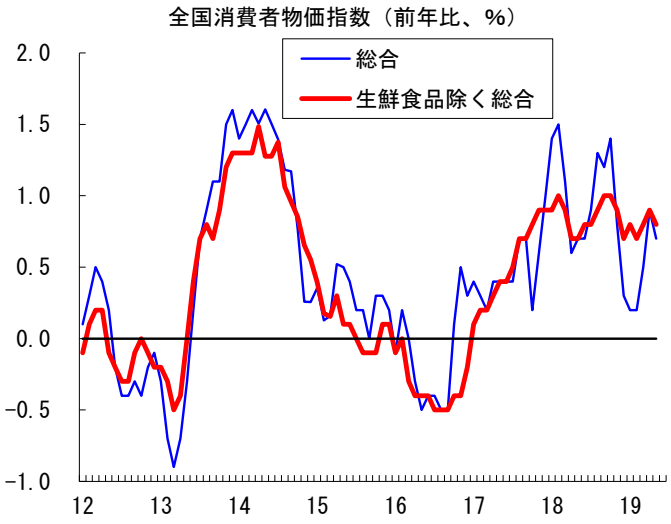
エネルギー以外では、除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）は前年比＋0.5％（４月：＋0.6％）、食料及びエネルギー除く総合（米国型コア）が前年比＋0.3％（４月：＋0.5％）と、ともに鈍化している。季節調整値でもともに前月比▲0.1％である。前年比の内訳では、宿泊料と外国パック旅行の伸びが鈍化したほか、携帯電話機の値下がりも影響している。宿泊料と外国パック旅行については、４月に 10 連休効果で大幅に値上がりしていたものが元に戻った格好だ。

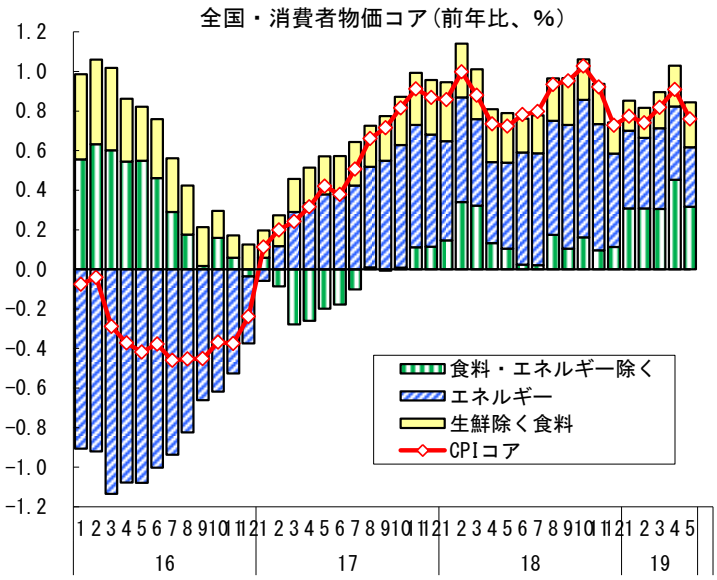
10 連休の影響で４、５月が多少振れたが、基調としてはコアコアはゼロ％台前半から半ばでの推移を続けている。伸びが鈍化しているわけではないが、高まる気配も窺えない。先行きについても強気になることは難しい。個人消費に力強さが欠けることから、値上げに対する企業の慎重姿勢が強い状況には変化はないとみられることに加え、足元で景気が踊り場状態に陥り、先行き不透明感が強いことも懸念材料だ。今後もコアコアは基調としては緩やかな伸びにとどまる可能性が高いとみるのが自然だろう。

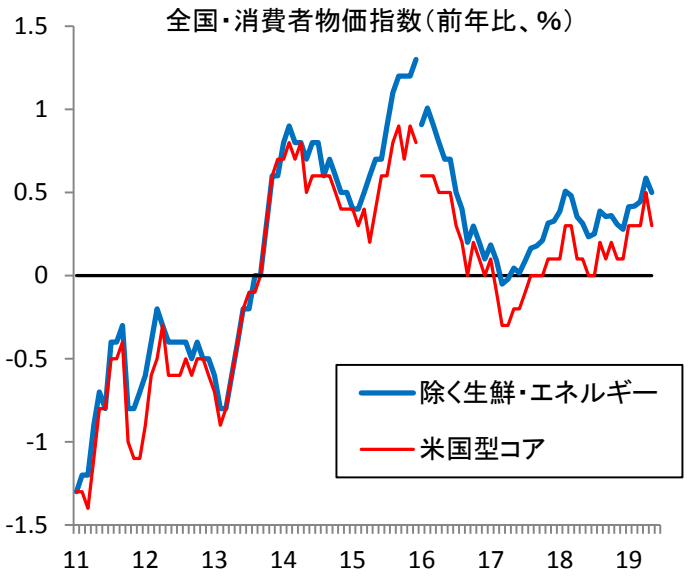
また、６月以降に下押し要因になる可能性が高いのが携帯電話通信料だ。６月から導入された大手通信会社による新料金プランの影響が出ることから、６月のコアコアは伸び率が縮小する可能性が高いだろう。この要因でＣＰＩコアが 0.1％～0.2％Pt 程度下押しされるとの見方が多いが、実際にどの程度の影響が出るかについては不透明感が強い。６月分のＣＰＩで思わぬ下振れの可能性もあるため注意が必要だろう。６月 28 日に公表される東京都区部のＣＰＩ（６月分）の結果には注目したい。

○先行きは鈍化傾向で推移する可能性大

６月以降、ＣＰＩコアはさらに鈍化することが予想される。鈍化の主因はエネルギー価格である。エネルギー価格のうち、電気代・ガス代は制度上、燃料価格の変動がかなり遅れて反映される。昨年末にかけて原油価格が大幅に下落したことの影響が遅れて顕在化することに加え、昨年の伸びが高かった裏が出ることもあり、電気・ガス代は前年比でプラス寄与が明確に縮小していく見込みだ。また、ここ数ヶ月上昇が続いていた石油製品価格についても、原油価格下落の影響を受けて６、７月には低下する可能性が高い。エネルギー価格の上昇率は 19 年末にかけて鈍化していくだろう。また、コアコアについても、前述のとおりそもそも基調が強くないところに携帯電話通信料という下押しが加わる。これらの結果、ＣＰＩコアは 19 年後半にはゼロ％前半まで鈍化することが予想される。







（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

（注）消費税率引き上げの影響は除いている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。